

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部
	課名	農政課
	係名	農業係
	記入者	電話(内線) 187

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		環境にやさしい農業推進事業				(3) 事業の 優先度		A									
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体		市												
① 事業の区分		主要事業							(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)										
② 施策コード		31301		(総合計画掲載ページ)		97		ページ		会計区分	一般会計										
基本目標(政策)		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)					財源区分			市単独											
基本施策		3-1元気あふれる農業の振興(農業)					予算科目			款 6		項 1		目 4							
施策		③農村環境の保全					予算書上の			園芸振興事業費											
施策内容		1環境にやさしい農業推進					事業名称			(予算書 116 ページに掲載)											
(5) 事業期間		開始		平成		19		年		4		月から		(8) 事務分類		自治事務					
		終了						年				月まで (		力年)		根拠法令					

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	市内園芸作物生産農家	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)	一斉防除が広く定着することで、農薬の削減と害虫被害が軽減し、環境に配慮した農業及びコスト削減による安定した農業経営が推進される。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	市内9箇所にフェロモントラップを設置してオオタバコガ、ハスモンヨトウ、コナガの発生状況を調査し、その結果を基に効果的な防除時期を予想し対象者に周知する。	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)	効果的な病虫害防除と農薬削減につながることから10年ほど前から開始された。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	安心安全で低農薬の農産物や環境に配慮した農業など、付加価値のある農業への関心が年々高まっている。		

3. 事業コスト

行政評価 実施計画		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
● 予算内訳		実績額(千円)	当初予算額(千円)	計画額・見込額(千円)			
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	需用費	339	315				
	県農林振興公社負担金	835	1,107				
	施設園芸研究会補助金	87	87				
	農業用廃プラ協議会補助金	80	80				
	会議等出席負担金	28	49				
	合計	1,369	1,638				
	国庫支出金(千円)						
	県支出金(千円)						
財源	地方債(千円)						
	その他特定財源(千円)						
	一般財源(千円)	1,369	1,638				
	合計(千円)	1,369	1,638				
	補助・起債制度名						

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	フェロモントラップの設置	目標値	箇所		9	9	9	9
		実績(見込)値		12	9			
	フェロモントラップ調査害虫	目標値	種		3	3	3	3
		実績(見込)値		2	3			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	農薬散布回数	目標値	回		6	6	6	6
		実績(見込)値		6	6	6	6	6
		達成率		100.0 %	100.0 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				
5. 事業評価								
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 一斉防除を一層広めるため、調査害虫を1種増やすため、市、県、JAで検討を行った。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	事業が定着しており、農家にとって必要性が高い。				
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない	市、県、JAで調査を行っているが、生産者への移行も視野に入れている。				
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	十分な効果が得られているが、他害虫の調査が必要かを行った。				
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	設置個所の削減による人員及び経費削減の検討の余地がある。				
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	農家組合をととして、各農家への周知を行っている。				
有効性	成果の向上	A	上がっている	一斉防除の増加により、農薬の削減、害虫被害の軽減が図られている。				
進捗度	事業の進捗	A	順調である	一斉防除を行う農家が増加している。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 有効性が高いが、効率を考えれば実施主体への移行を検討しなければならない。一斉防除をさらに広めるために、他害虫の調査について実施したほうがよい。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 実施主体の移行もしくは他害虫調査の優先順位を決め、事業を展開していく。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		28年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		現状のまま継続 (改善・改革なし)		注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		現状のまま継続 (改善・改革なし)		環境に配慮した農業を図るため、事業の継続が必要である。				
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う				上記評価のとおり。				